

「絆や」活動報告in福岡

奈良県奈良市
若年認知症サポートセンター「絆や」
恩塚浩史

はじめに

- * 働く世代における認知症
- * 認知症高齢者とは違う支援課題（仕事、子供への影響、養育費や家のローン等の経済問題、介護負担の大きさ等々）
- * 認知症高齢者に比べ、実態が明らかでなく、支援も十分でない
- * 平成20年に国の認知症対策で大きな柱の一つになる（しかし、企業や行政、医療・介護分野でも認識が不足している）

若年認知症ハンドブックより

若年認知症者と家族の声

- * 「相談できる場所がない」
- * 「見てくれる病院がない」
- * 「受け入れてくれる介護施設がない」
- * 「薬やひもで縛られたくない」
- * 「夫の介護で仕事にいけない。経済的に苦しい」
- * 「働きたい」

相談支援の現状 「相談する場所がない」

- * 相談内容が多様。（雇用、医療、障害、介護等）
- * 若年認知症の理解をしている相談員の数が少ない。
- * 信頼できるデータも少なく、社会資源も乏しい。
- * 配偶者介護と生計を立てる2つの役割が介護者の負担を増大させ、相談できる時間がない

医療支援 「見てくれる病院がない」

- * 医療機関はあるが、本人・家族が安心して受診できていない。
- * 企業内で発症する場合、産業医との連携が必要になる
- * 医療から福祉へのつながりができていないため、自宅での生活支援に困る。
- * 緊急時の受け入れ態勢ができていない

経済支援 「経済的に苦しい」

- * 配偶者介護で働けない。
- * 家のローンや養育費が払えない。（生命保険の高度障害認定の基準見直し）
- * 既存の障害年金や障害者手帳の取得等の情報が伝わらない。（データでは、ケアマネージャーの3～4割が知らない現状も）

介護支援

「受け入れてくれる介護施設がない」

- * 知識、技術不足
- * 若年認知症の方の支援ができない(高齢者主体の制度で、若い方をうけいれできない等)
- * 個別支援のかかわりが困難
- * 特に男性は、身体能力が高いので、対応できない。

就労支援

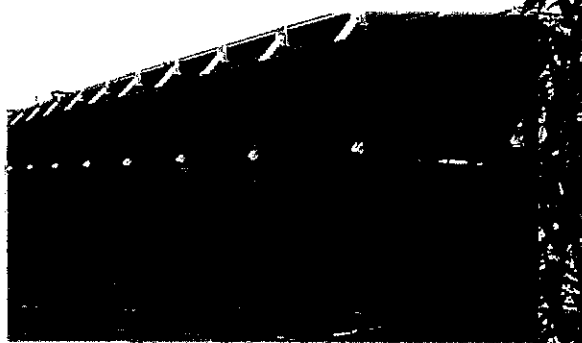
「仕事がしたい」

- * 50代での退職後、再就職は困難
- * 介護施設での就労ができない。
- * 自立支援法での利用も現実困難
- * 収入と社会的居場所を同時に喪失
- * 孤立

課題に対して 若年認知症サポートセンター「絆や」 の取り組み

- * 県内において、ワンストップで相談支援ができる体制作り
- * 医療機関とのネットワーク作り
- * 全国若年認知症協議会での生命保険会社等への働きかけ
- * 介護施設が受け入れができるような環境作り
- * 働く事ができる環境作り等々

中登美団地商店街にある若年認知症サポートセンター「絆や」



一日の仕事のスケジュールです。

10時00分	出勤
10時10分	ミーティング
10時20分	会社内掃除
10時30分	作業道具を車へ積み込み
10時35分	出発
11時00分	草抜き作業開始
	20分作業して15分休憩
12時00分	昼食(弁当)
12時45分	昼食後の運動(キャッチボール)
13時00分	作業開始
15時30分	作業終了
15時45分	会社に戻りミーティング
16時00分	退勤

絆や理念

理想は、会社の人と力を合わせて
状況に合わせて、臨機応変にやる。
ちよつとやって、ちよつと飲みに行く。
みなさんとできるな。ゆるくていいじゃない。これが、プロだ！！

おわりに

* 若年認知症者と家族の生活支援は、1事業所でできるものではありません。現場・県・市町村・社会福祉協議会・家族会・地域包括・医療機関等々の地域資源がネットワークを構築し、それぞれの立場の役割を果たすことが大切であると考えています。地域の方々が、若年認知症の支援の必要性を感じ、行動をおこしていただけるよう訴えていきたいと考えています。

